

Y24a 「ひので衛星といっしょに太陽を観測しよう2014」の実践とその結果について

矢治健太郎 (国立天文台)

太陽観測衛星「ひので」の観測データは研究だけでなく教育目的にも利用することが推奨されている。そこで、2010年より高校や公開天文台・科学館の太陽観測と共同観測を行う観測提案「ひので衛星といっしょに太陽を観測しよう」を毎年実施してきた。この共同観測を行うことで、日頃太陽観測を行なっている高校生たちが、ひのでの観測データに関心を持ち、自分たちの太陽観測データと比較することを奨励する。これまで、中高等学校や天文教育施設だけでなく、大学の教育学部や天文同好会も参加し、ユニークな広がりを見せている。

2014年は7月21日から26日に実施し、14の学校・施設が参加した。うち7校は今回新しく参加した。そのほとんどが白色光による観測だが、6ヶ所がH線、3ヶ所がCaK線の観測による観測である。電波観測も1校行なっている。共同観測期間中は毎回、ひので側に観測領域をリクエストしている。観測期間中、晴天に恵まれたところも多く、連日黒点も出現した。7月25日にはひのでとプロミネンスの同時観測に成功し、自分たちの観測とひのでが観測したプロミネンスの微細構造を比較するいい機会となった。共同観測した学校の中には、都道府県の研究発表会で共同観測結果を発表しているところもある。

今回、共同観測を行うにあたり、参加校・施設に事前・事後のアンケート調査を行ない、共同観測や太陽という天体への意識がどう変化したか調査した。本講演ではこの結果についても報告する。